



天敵によるバラのハダニ類防除



施設栽培ブドウの園地巡回指導

令和4年度

 福岡県  
Fukuoka Prefecture

# 普及活動成果集

## 久留米普及指導センター



ホウレンソウ省力作業体系の推進



集落営農法人への面談指導



全国和牛能力共進会「種牛の部」審査



イチゴ新規栽培者の学習会

## はじめに

久留米普及指導センター管内は、筑後川中・下流域の肥沃な平坦地域で米・麦・大豆のほか、野菜、花き、畜産など、また、耳納山麓地域では、カキをはじめとする果樹や花木、茶などが生産され、令和2年農業産出額は426億円と県の22%を占める県内屈指の農業地帯です。

この生産は、雇用労働力を活用した大規模経営や、集落営農、新規就農者等の多様な担い手が支えており、地域農業の更なる発展が期待されています。



県では、令和4年3月に「福岡県農林水産振興基本計画」を策定し、その達成に向けて各種の施策を展開しています。当普及指導センターでは、この基本計画に則して普及指導計画を定め、市町、農業協同組合をはじめ、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー等と連携して普及活動を展開しています。

令和4年度の普及活動は、「もっと輝く！もっと活力と魅力あふれる！久留米の農業へ」をスローガンに掲げ、3つのプロジェクト課題と15の係課題を設定し、活動に取り組んできました。

しかし、農業を取り巻く情勢を見ますと、担い手の減少や高齢化に加え、自然災害の頻発、さらに、新型コロナウイルス感染症の影響が長引く中、化学肥料や燃料といった資材価格が高騰するなど、環境は大きく変化しております。これらにより、多くの農家が経営的な打撃を受け、農業生産にとっては非常に厳しい状況が続いております。

このため、現場の普及活動においても、感染防止対策を取りながら、気象変動に対応した技術対策や、経営相談会での資金対応など、生産と経営の安定化に向けて全力で取り組んで参りました。加えて、今後の新たな経営発展に資する「スマート農業」の推進や、担い手の確保・育成対策も実施しました。

この冊子は、これまでの取組みにより令和4年度までに一定の成果が上がったものを取りまとめたものです。いずれも農家リーダーの皆様、市町・JAなど関係機関団体の皆様との連携活動によって成し得たものです。ここに改めてお礼を申し上げます。

当普及指導センターは、今後とも農業者の皆さんの経営の発展、久留米地域農業・農村の振興に向けて所員一丸となって取り組んで参りますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和5年3月

朝倉農林事務所久留米普及指導センター長 岩屋 広子

# 目次

## 1 普及活動の成果

(1) 久留米地域における野菜（イチゴ・葉菜類）産地の振興	1
(2) 新しい「モノ」「システム」「ヒト」の育成によるみい地区農業の活性化	2
(3) 中山間地園芸農業の新しい形を作る	3
(4) 新規就農者の育成・確保	5
(5) 麦類の収量・品質の高位安定及びスマート農業の推進	6
(6) 葉菜類の省力化・スマート化による生産性の向上	7
(7) トマトの生産および経営の安定	8
(8) 花きの魅力発信と需要にあわせた花きの生産振興	9
(9) 柿の早生・中生品種の収量・品質向上による経営確立	10
(10) 持続する酪農経営の基盤強化	11

## 2 トピックス（注目の活動・技術の紹介）

(1) 農福連携の取組み拡大に向けて	12
(2) アルバイトアプリ活用による雇用導入の検証	12
(3) アスパラガス産地の育成	13
(4) 新規栽培者の「あまおう」技術の早期習得	13
(5) 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会 「種牛の部」県代表として初出品！	14
(6) 大豆圃場のアサガオ類が激減	15
(7) 天敵によるバラのハダニ類防除技術の導入	15

## 3 参考資料

(1) 受賞実績	16
(2) 令和4年の気象	19
(3) 主な展示ほ概要	20
(4) 普及指導センター活動情報一覧	21
(5) 普及指導センターの活動体制	22



# 1 普及活動の成果

## 1 久留米地域における野菜（イチゴ・葉菜類）産地振興

実施期間：令和4年～6年度

J Aくるめ管内は葉菜類経営を中心とした農業地帯であるが、高齢化、農産物の単価低迷、繰り返される豪雨災害、新型コロナウイルス感染拡大による消費低迷等により、近年農産物販売額が減少している。また、燃油・資材価格の高騰が経営を圧迫しています。

こうした課題に対し、産地を活性化させ、販売額維持向上を図るために、推進体制を整備し、イチゴ産地振興と葉菜類産地の振興を最重要課題と位置づけ、関係機関、農業者と連携して解決に向けて取り組みました。

### 対象の概況

J Aくるめのいちご部会	51名	10.0ha	販売額：6.6億円
J Aくるめ主要な葉菜類部会			
リーフレタス部会	87名	255ha	販売額7.7億円
サラダ菜部会	12名	9.3ha	販売額3.8億円

### 活動の内容

#### (1) 推進体制整備

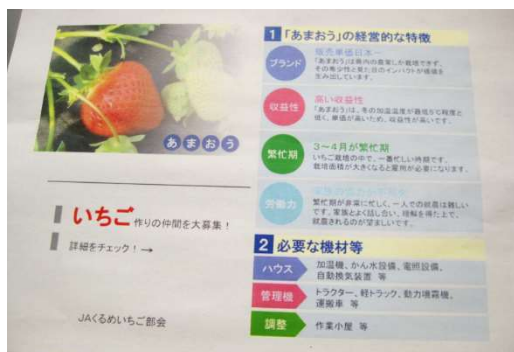
- ・園芸農家体質強化プロジェクト会議

#### (2) イチゴ産地の振興

- ・新規就農者向けチラシ作成
- ・新規就農者向け学習会
- ・青年部現地研修会

#### (3) 葉菜類産地の振興

- ・夏季品目実証ほ設置
- ・参入事例調査
- ・新規品目栽培講習会
- ・モデル農家経営コンサル



新規就農者向けチラシ

### 成果

#### (1) 推進体制整備

- ・園芸農家体質強化プロジェクトを立ち上げ、久留米市農業振興協議会の活動に位置付け。

#### (2) イチゴ産地の振興

- ・新規栽培者 3名増加
- ・栽培面積 0.6ha拡大
- ・5t/10a以上生産者 13名

#### (3) 葉菜類産地の振興

- ・久留米市農業振興協議会で推進品目選定。

(クサンサイ、中社、ミズナ、アスパラガス、チゲンサイ)



新規品目栽培講習会

### 今後の取り組み

久留米市農業振興協議会の中で、園芸農家体質強化プロジェクトを核に、経営振興部会、野菜振興部会、雇用型経営推進プロジェクトとも連携して、イチゴ産地の振興、葉菜類産地の振興に取り組んでいきます。

## 2 新しい「モノ」「システム」「ヒト」の育成による みい地区農業の活性化

実施期間：令和4年度～6年度

みい地区は水田作物や葉物野菜を主力とした地域で、近年、価格低迷、資材高騰等の中、生産者は厳しい経営状況となっています。

そこで、関係機関と協力し、より収益性の高い品目の検討や、ICTによる生産管理システムの導入に取り組みました。また、先進的な法人における雇用の効率的な活用や、雇用を導入して間もない若手生産者の経営安定を支援しました。

### 対象の概況

JAみい管内の園芸部門 の部会等	32部会
野菜を主体とした法人	7法人
JAみい青年部の若手経営者	15名

### 活動の内容

#### (1) 需要品目と生産管理システムの推進

- ・ 推進品目検討会
- ・ 推進品目の試算分析
- ・ 生産管理システム検討会
- ・ 防除優良事例調査

#### (2) 法人の技術レベルの維持向上と若手経営者の育成

- ・ 目標設定検討会（法人）
- ・ 各法人への支援
- ・ 目標評価検討会（法人）
- ・ 経営勉強会



法人の技術向上支援

### 成果

#### (1) 需要品目と生産管理システムの推進

- ・ 主要品目の試算分析を行い、関係機関と需要が期待される品目を検討。
- ・ 9部会が生産管理システム（あい作）を導入。

#### (2) 法人の技術レベルの維持向上と若手経営者の育成

- ・ 3戸の法人が被雇用者の技術向上について目標を作成し、1戸が達成、2戸が達成見込み。
- ・ JAみいの経営セミナーを活用して、経営勉強会を開催。

基本情報		作業履歴	施肥履歴	防除履歴	出
登録番号 農家名	履歴回数	回数	適用病害虫 雑草名	実施日 (基準説明)	
22461 アサガオアサガオ	3回	1回目	アサガオ、アサガオ	2022-01-28 08時 (収穫前日まで)	
19842 アサガオ	2回	1回目	アサガオ	2021-12-24 20時 (収穫3日前まで)	
		2回目	アサガオ	2022-01-28 08時 (収穫3日前まで)	
22583 アサガオ	1回	1回目	アサガオ類、アサガオ類、アサガオ類	2021-12-24 20時 (収穫7日前まで)	

生産管理システム「あい作」の防除履歴画面

### 今後の取り組み

新規品目に取り組む意欲のある生産者に対し、情報提供や技術指導、その試作を行い、関係機関と推進方針を検討します。

生産管理システムのデータを活用し、履歴の分析等を行い、ICT技術の活用を促進します。

先進的な法人の目標達成を支援するとともに、若手経営者に対し、セミナーや勉強会への参加を働きかけ、経営管理能力の向上を図ります。

# 3 中山間地園芸農業の新しい形を作る

実施期間：令和2～4年度

JAにじ管内は、平坦地では野菜や花などの施設園芸が、中山間地にかけては果樹栽培が盛んな地域です。しかし、生産者の高齢化に伴って農家戸数が減少し産地規模の縮小が続いています。

このため、今後のJAにじ管内園芸農業の振興を図る目的のもと、今後の目指すべき地域園芸農業のビジョンを策定し、地域を牽引するモデル経営体の育成および新規就農者の確保・育成からなるプロジェクト活動の実践によって、中山間地園芸農業の新しい形（仕組み）作りに取り組みました。

## 対象の概況

- ・(株)うきはレインボーファーム（新規就農者研修、農地中間保有）
- ・新規就農希望者（独立就農、親元就農、雇用就農）
- ・主要な生産部会及びモデル経営体数

品目	生産部会員数(人)	モデル経営体数(戸)
トマト	47	2
イチゴ	52	2
花き	31	2
カキ	504	7
ブドウ	214	8

生産部会員数は令和2年3月末現在

## 活動の内容

### (1) 推進体制の整備

- ・JAにじ管内アグリコネクト協議会の設立
- ・地域ビジョンの策定

### (2) モデル経営体の育成

- ・モデル経営体への個別支援（21戸）
- ・主要な生産部会員への営農意向調査の実施
- ・経営資産台帳の整備・更新  
地図ソフトを活用した電子データ化
- ・雇用労力補完システムの構築  
労働力支援会社やバイトアプリを活用した農繁期におけるスポット雇用の有用性検証)
- ・農業者向け研修会の実施

### (3) 新規就農者の確保育成

- ・新規就農者受入れのための研修メニュー作成
- ・県農業大学校における就農セミナーの実施
- ・就農相談会への参加（他機関主催）
- ・産地提案書の協議・作成
- ・トレーナー研修の実施



バイトアプリ活用による雇用募集



産地提案書（案）の作成



## 成果

### (1) 推進体制の整備

- ・ JAにじ管内アグリコネクト協議会の設立  
プロジェクト活動の具体的な企画運営を担う組織として、(株)うきはレインボーファーム、JAにじ、うきは市、久留米普及指導センターで園芸農業振興に特化した協議会を設立。
- ・ 地域ビジョンの策定  
品目振興、担い手育成等の観点から今後の目指すべき地域園芸農業の形を明確化。

### (2) モデル経営体の育成

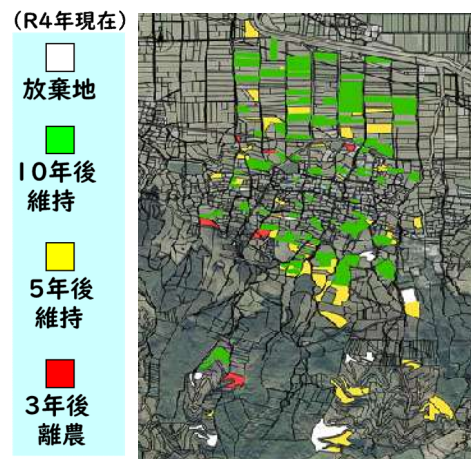
- ・ 7 経営体が個別の経営目標を達成  
トマト、イチゴ、切花、カキ、ブドウで地域を牽引する21のモデル経営体を選定し、支援カルテ「経営体コンサル活動計画(実績)表」に基づき規模拡大と雇用導入の目標達成に向けた支援を個別に実施。
- ・ 経営資産流動化の推進  
経営資産台帳を基に「地域将来予測図」を作成し、生産者の意向を「見える化」。これを活用して園地やハウス施設等の経営資産マッチングを実施。
- ・ 雇用労力補完システムの構築  
園芸農家も有用性を実感し、雇用労力を随時活用できる選択肢が増えた。

### (3) 新規就農者の確保育成

- ・ 新規就農者の確保  
個別の状況・要望に応じた相談対応によって、16人が就農（トマト：1、イチゴ：1、切花：4、カキ：3、ブドウ：3、ナス：2、サツマイモ：2）。
- ・ トレーナーの育成  
主要な生産5部会（トマト、イチゴ、切花、カキ、ブドウ、）でトレーナーを設置。



栽培技術指導（トマト）



地図ソフトF-cloudによる「地域将来予測図」

(吉井町屋部地区のカキ・ブドウ18経営体)

## 今後の取組み

中山間地園芸農業の新しい形をつくるための支援ツール（経営資産台帳、雇用労力補完システム、トレーナー制度、産地提案書等）の普及と改良に継続して取り組んでいきます。  
また、プロジェクト活動による既存経営体や新規就農者の経営改善効果について検証を行っていくとともに、策定した地域ビジョンについて農業者と関係機関との共通認識のもと、実現を推進していきます。

## 4

地域振興課 地域係

# 新規就農者の育成・確保

実施期間：令和3～5年度

市町・J A等の関係機関と連携して、就農相談や新規就農者の経営計画作成などの支援を行いました。

特に、新規就農者から要望の多い「技術に関する相談・情報提供の充実」に対して、営農基礎講座を充実して開催しました。

## 対象の概況

新規就農者（H30～R2年度）	90人
農業次世代人材育成事業（H28～R2開始型）実施者	61人

## 活動の内容

### （1）新規就農者の確保

- ・ 就農相談会の開催
- ・ 新規就農計画の作成支援

### （2）新規就農者定着率の向上

- ・ 営農基礎講座の開催  
共通1回  
専門コース  
イチゴコース5回、葉物コース3回
- ・ 農業次世代人材育成事業（開始型）実施者および3年未満就農者の個別巡回



営農基礎講座：現物を用いた病害の説明

## 成果

### （1）新規就農者の確保

- ・ 令和3年度 34人
- ・ 令和4年度 34人

### （2）新規就農者定着率の向上

- ・ 就農3年後の定着率 100%
- ・ 経営計画（開始型）目標達成率 59%



営農基礎講座（葉物コース）先輩農家の講話

## 今後の取り組み

引き続き、新規就農者の定着支援のため、相談、研修会の開催、個別巡回を継続します。



## 5

地域振興課 水田農業係

# 麦類の収量・品質の高位安定及びスマート農業の推進

実施期間：令和2～4年度

麦類経営では、収量・品質の高位安定が重要です。そこで、土づくりや雑草対策、排水対策等の基本技術徹底を推進しました。

また、水田農業の担い手の高齢化が急速に進み、労働力不足が深刻となっているため、省力化・軽労化のためにスマート農業機械の実用性検証や研修会等を実施しました。

## 対象の概況

R4年産作付面積

麦類	4,773ha
----	---------

担い手数（R3年度末）

個別大規模農家	個別58、法人8
集落営農組織	任意69、法人50

## 活動の内容

### （1）麦類の安定生産

- ・栽培展示ほの設置
- ・栽培講習会及び現地指導
- ・栽培情報の提供
- ・品質分析及び個別指導

### （2）スマート農業の推進

- ・研修会の開催
- ・実証ほの設置
- ・導入志向農家調査
- ・スマート農業チラシ作成

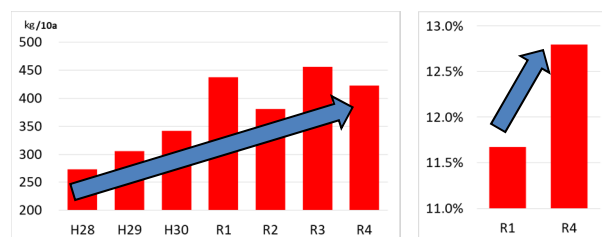


麦類栽培講習会及びスマート農業研修会

## 成果

### （1）麦類の収量・タンパク質含有率の向上

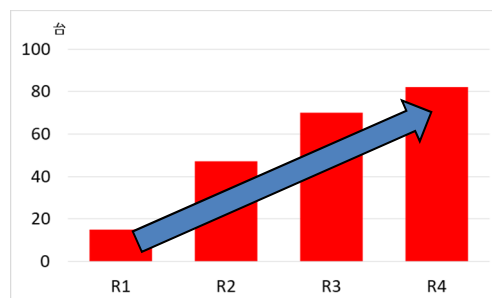
- ・わらすき込み推進、雑草対策、排水対策等を講習会で呼びかけ、適切な管理が実施されたこと、気象条件に恵まれたことで多収に繋がった。
- ・タンパク質含有率が低い生産者への重点指導等によりタンパク質含有率が向上。



### 収量(左)・タンパク質含有率(右)の推移

### （2）スマート農業機械の導入数

- ・研修会や実証ほ、チラシ作成により農業者のスマート農業に対する関心を高めてきたこと、さらに補助事業が活用されたことで機械導入数が増加。



### スマート農業機械の導入数の推移（累計）

※ドローン、GPS田植え機、収量コンバインの導入台数累計

## 今後の取り組み

スマート農業機械の導入数は増加しているものの、その機能が十分に活用されていない事例が見受けられるため、導入後の活用を推進するなどの活動を行っていきます。

## 6 野菜花き課 野菜第一係

# 葉菜類の省力化・スマート化による生産性の向上

実施期間：令和3～5年度

ハウレンソウなどの葉菜類では規模拡大に伴い、収穫や調製、包装作業で高性能な省力機械の導入が進んでいます。そこで、導入経営体に対して、機械利用の優良事例の共有や生産性向上目標の達成支援を行い、モデル経営体の育成を図りました。

また、機械を効率的に活用するためには安定生産が必須となるため、近年発生が拡大しているハウレンソウベと病の防除対策に取り組みました。

### 対象の概況

省力化機械、スマート農業技術導入経営体	13経営体
管内ハウレンソウ生産者	生産量861t

### 活動の内容

#### (1) モデル経営体の育成

- ・ 省力化機械の導入事例調査
- ・ 導入・改善事例集の作成
- ・ 生産性向上目標の達成支援
- ・ 生産性向上研究会の開催  
(省力化機械の導入事例の共有、効果的な活用方法に関する検討)

#### (2) ハウレンソウベと病の防除対策の徹底

- ・ 抵抗性品種試験ほ設置
- ・ 防除情報の提供
- ・ 一斉防除（見回り）週間の実施
- ・ 防除対策会議の開催



省力化機械の実演会

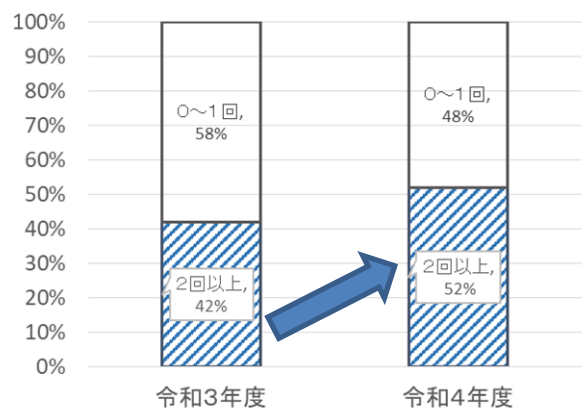
### 成果

#### (1) モデル経営体の育成

- ・ 11経営体で生産性向上目標を設定し、3経営体が目標を達成。
- ・ 生産性向上研究会はR3年度に設立。

#### (2) 共通生産課題（ハウレンソウベと病策）の解決

- ・ 防除回数を指標とする防除意識の割合が10ポイント改善（42%→52%）。



防除回数の増加

### 今後の取り組み

引き続き、導入経営体の生産性向上目標の達成を支援するとともに、研修会で機械の導入効果を紹介し、地域への波及を図ります。

さらに、防除情報の提供、防除対策に関する実証ほ設置、生産者や関係機関と連携した見回り活動により、地域全体での防除意識の改善に取り組みます。

# トマトの生産および経営の安定

実施期間：令和2～4年度

管内のトマト部会では、黄化葉巻病被害や高温による障害果の発生により春先の生産性低下が問題となっており、持続的なトマト経営のためには、春先の安定生産が重要です。

そこで、黄化葉巻病対策の徹底や高温対策展示ほの設置、スマート農業研修会による知識習得を行い、春先の生産性向上に取り組みました。また、9戸の生産者を対象にコンサルティングやグループ勉強会を行い、経営の安定支援に努めました。

## 対象の概況

組織名	戸数（戸）
JAくるめトマト部会	14
JAにじトマト部会	45

販売額800万円/10a以下及び新規栽培者 9戸

## 活動の内容

### (1) 生産量の向上

- ・ 現地検討会の実施
- ・ 防除対策資料の提供
- ・ ハウス内環境調査
- ・ 高温対策展示ほの設置
- ・ 品種試験
- ・ スマート農業研修会の実施

### (2) 経営の安定

- ・ 個別重点指導
- ・ コンサルティング
- ・ 収量向上希望農家のグループ化
- ・ 植物生理に応じた環境制御勉強会の実施



経営コンサルティング

## 成果

### (1) 生産量の向上

- ・ 現地検討会での指導や防除対策の徹底、スマート農業研修会を実施したことで、単収が向上。
- ・ 防虫ネットの設置や遮光管理ができていないほ場では、黄化葉巻病の発生や高温による樹勢低下、障害果の発生が認められる等、ハウス内環境条件との関係性が明らかとなった。

### (2) 経営の安定

- ・ コンサルティングにより課題を把握し、個別重点指導やグループ勉強会により3戸が収量目標を達成。



グループ勉強会

## 今後の取り組み

産地全体の取り組みとなるように、引き続き黄化葉巻病防除対策を行うとともに、高温対策に取り組み生産性向上を図ります。

栽培に関するチェックシートを活用し、生産者の栽培技術を客観的に評価します。



# 花きの魅力発信と需要にあわせた花きの生産振興

実施期間：令和3～4年度

近年の花きでは、新型コロナウイルス感染症の影響による需要の減少や価格の不安定等が懸念されます。

そこで、花きの魅力を伝える情報発信やPR活動により花き需要の維持を図るとともに、育種や知的財産権を活用した新商品開発および経営の安定に資する推奨新品目の開発・導入に取り組みました。

## 対象の概況

組織名	戸数(戸)
田主丸認定農業者 緑化部・鉢物部会	13
JAくるめ鉢花部会	14
JAみい切り花部会	33
JAみい鉢物部会	7
JAにじコンテナ部会	14
JAにじ鉢物部会	53
JAにじ花部会	29
WWAアジサイランチ	3
久留米つばき研究会	5
福岡アジサイの会（管内）	6
久留米輸出組合	5
品種育成志向農家	3

## 活動の内容

### (1) 魅力発信支援

- ・ 農振協3地区合同会議
- ・ 産地PR、花き消費拡大活動（飾花）
- ・ 情報発信組織会議
- ・ 発信情報の分析、検討

### (2) 新商品開発・販路拡大支援

- ・ 実需調査会議
- ・ オリジナル品種育成活動支援
- ・ アジサイブランド化検討会
- ・ 新品目栽培技術試験

## 成果

### (1) 魅力発信支援

- ・ 情報発信組織の設立（R3）
- ・ SNSでの産地情報発信 4



YouTubeで情報発信

### (2) 新商品開発・販路拡大支援

- ・ 新商品数(知的財産権取得) 19  
種苗登録 13(アジサイ、バラ、ユーカリ等)  
商標登録・更新 6(パイン・バラ鉢物等)
- ・ 推奨新品目数 2  
(マリーゴールド、アストラランチア)



種苗登録申請したアジサイ「月虹」

## 今後の取り組み

新品目の栽培技術確立と産地化を図るとともに、育種や新商品開発の支援を行います。

# 柿の早生・中生品種の収量・品質向上による経営確立

実施期間：令和2～4年度

管内のカキ産地では、高単価が期待できる早生・中生品種の「早秋」、「太秋」、「秋王」の導入を進めていますが、収量や品質が不安定となりやすいことが課題でした。

そこで、品種毎の研究会を立ち上げ、栽培実態調査や実証ほをとおして技術の普及に取り組み、経営確立を支援しました。

## 対照の概況

各品種の主要生産者（戸）

	JAにじ	JAくるめ
早秋	47	—
太秋	17	—
秋王	21	5

## 活動の内容

### (1) 研究会活動の実施

- ・園地巡回
- ・品種別講習会・勉強会

### (2) 各品種の収量・品質向上

- ・技術確立のための実証ほの設置
- ・着果管理の実態調査

### (3) 柿主体の経営確立

- ・個別農家の経営改善支援
- ・研修会の実施



品種別講習会（太秋）

## 成果

### (1) 研究会活動の実施

- ・品種ごとに研究会を設置し、栽培マニュアルを作成し配布。
- ・新技術の導入実践が拡大。

### (2) 各品種の収量・品質向上

- ・目標反収達成者が増え、出荷量が増加。
- ・「早秋」の炭そ病防除体系を確立し、防除暦に反映。
- ・「秋王」の外観品質が向上し、優品以上果実の割合が57%に増加。

	目標反収 (/10a)	目標達成者 (戸)		出荷量 (t)	
		R1	R4	R1	R4
早秋	2 t	5	14	177	237
太秋	2 t	2	6	277	552
秋王	800kg	3	11	40	109

### (3) 柿主体の経営確立

- ・カキ主体の農家7戸の経営支援をとおし、全ての農家で改善目標を設定、主に3品種の収益性向上により4戸が改善目標を達成。

## 今後の取り組み

各品種の技術改善と普及に引き続き取り組むとともに、個別の経営支援を進めます。

# 持続する酪農経営の基盤強化

実施期間：令和2～4年度

高齢化や後継者不足により、酪農家戸数の減少が予想されます。

そのため、カウンセリングを通じて酪農家とともに中長期計画を作成した上で、経営目標の達成を支援しました。また、スマート畜産の推進を図るため、新技術導入後の検証や導入効果の情報提供を行いました。

## 対象の概況

	管内の状況	うち重点
農家戸数	72	24
経産牛頭数	3,600	1,419
未経産頭数	1,459	483

## 活動の内容

### (1) 地域酪農担い手支援

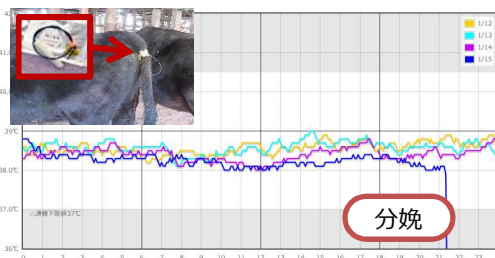
- ・ カウンセリング
- ・ 中長期計画作成支援
- ・ 計画に基づく経営戦略達成支援



カウンセリング

### (2) スマート畜産の推進

- ・ 新技術実態調査・導入後フォロー
- ・ スマート畜産研修会
- ・ 情報提供・新規導入支援



分娩監視装置で測定された体温の推移

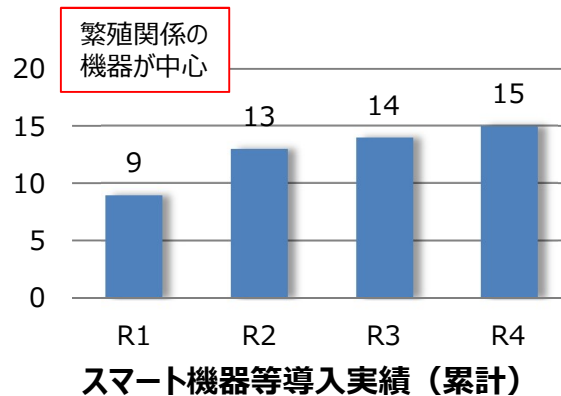
## 成果

### (1) 地域酪農担い手支援

- ・ 19戸が中長期計画を作成。
- ・ 15戸が短期計画（2年後）を達成。

### (2) スマート畜産の推進

- ・ スマート機器等の導入件数 15件
- ※ スマート機器：発情発見装置、分娩監視カメラ、哺乳ロボット、搾乳ロボットなど、ICTやロボット技術を活用し、省力・高品質生産を実現する機器



## 今後の取り組み

引き続き中長期計画の達成に向けた支援を関係機関と連携して行います。また、新技術が日々開発されているスマート機器についても、導入支援を行います。



## 2 トピックス（注目の活動・技術の紹介）

### No. 1 農福連携の取組み拡大に向けて

地域振興課 地域係

#### ◆取り組みの概要

久留米市農業振興協議会雇用型経営推進プロジェクト（久留米市、JAくるめ、久留米普及指導センターで構成）では、久留米市内の農作業の受託を希望する福祉事業所13か所と、今後、障がい者雇用の意向のある農家9名を集めての意見交換会を開催しました。

まず初めに、農福連携に取り組んでいる事例として、久留米市大橋町で葉菜類の栽培をしている草場大和氏から報告をしてもらいました。その後、意見交換を行い、「農業側は福祉のことを、福祉側は農業のことをお互いが把握して理解することが必要であり、こういった顔合わせの場を今後も設けてもらいたい」との要望がありました。



意見交換会



事例報告をする草場氏

#### ◆今後の取り組み

引き続き、関係機関及び福祉事業所と連携しながら農福連携の取組み支援を行っていきます。

### No. 2 アルバイトアプリ活用による雇用導入の検証

果樹畜産課 果樹係

#### ◆取り組みの概要

果樹栽培における労働力確保に向けた取り組みとして、農業アルバイトアプリ「デイワーク」の導入を検証しました。JAにじおよび同JAかき部会青年部と連携し、カキの収穫作業を通じたアンケート調査や作業量調査等を行い、結果を関係機関と共有しました。導入農家からは、「手軽に人手を確保できた」、「適期の収穫ができて助かった」、「今後もアプリを活用したい」等の意見が寄せられました。



アルバイトへの仕事内容の説明



アルバイトによるカキ収穫

#### ◆今後の取り組み

果樹だけでなく、他部門（野菜、花き等）での導入拡大も視野に入れた検討を継続し、農家の労働力確保を支援します。

## No. 3 アスパラガス産地の育成

野菜花き課 野菜第一係

### ◆取り組みの概要

近年、葉菜類の単価低迷や連続して発生する豪雨被害を受け、単価が比較的安定し、水害の影響を受けにくいアスパラガスへ一部品目転換する生産者が増加しています。

JAくるめアスパラガス部会に対しては、JAくるめと連携して栽培講習会や個別巡回指導を行い、3戸の収量が向上しました。また、みい地区の新規生産者に対しては、生産者の組織化を行い、作付け前講習会や現地検討会を通じて、早期の技術習得を図りました。



新規作付が進むアスパラガス



根の状況を確認し水管理を説明

### ◆今後の取り組み

栽培講習会や個別巡回指導、収量向上試験などを通じて、アスパラガスの生産安定と新規生産者のネットワークづくりに取り組みます。

## No. 4 新規栽培者の「あまおう」技術の早期習得

野菜花き課 野菜第二係

### ◆取り組みの概要

近年、管内では、新規就農や品目転換でのイチゴの新規栽培者が増加傾向にあり、早期の知識・技術の習得が必要です。そこで、JAや市町と連携して6～10月にかけて計5回の学習会を行いました。

学習会では、イチゴの生理生態、作業管理、病害虫対策、経営管理などの座学による講義や管内高収量者の現地視察を行いました。参加した生産者から活発な質問や意見交換が行われ、イチゴ栽培への意欲を高めあう有意義な学習会となりました。



「あまおう」の生理生態についての講義



高収量者のほ場を現地視察

### ◆今後の取り組み

新規栽培者の「あまおう」栽培技術の早期習得を目指して、関係機関と連携し、引き続き支援を行っていきます。

# No.5 第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会

## 果樹畜産課 畜産係 「種牛の部」県代表として初出品！

### ◆取り組みの概要

5年に1度開催される「和牛のオリンピック」として第12回全国和牛能力共進会が、令和4年10月6～11日の間、鹿児島県霧島市において開催されました。

福岡県は、前回第11回宮城大会(H29)において初めて「肉牛の部」に出品しており、それを契機に「繁殖部門でも出品しよう！」という声が高まり、関係者の尽力により今回大会で「種牛の部」に初出品することとなりました。

本県の最終予選会は令和4年8月6日に開催され、月齢により若雌「第2区」「第3区」の2つに区分され、月齢に応じた発育・和牛雌牛としての品の良さ・全体的なバランスに着目して県代表が1頭ずつ選出されました。久留米地域和牛改良組合からは全候補牛17頭のうち11頭を出品し、うち「第2区」で久留米市の大石昌史氏所有「ちえこ」号が県代表牛として選ばれ、ここから本番へ向けての険しい道がスタートしました。



福岡県最終予選会



調教

初めての経験であるため、本番の審査会場の様子・情報は全く無く、会場では「ちえこ」号と大石昌史氏の「二人だけ」の戦いとなります。その戦いに挑むために、これまで同じように全共出品を目指していた久留米・朝倉地区の牛飼仲間が集まり、二人を強力にサポートする“チーム体制”が出来ました。「本番の審査会場では、恥ずかしくない“立ち振る舞い”をすること」を目標とし、静止して長時間立ち姿勢をきれいにする“つなぎ運動”や、指示通りに動く歩行訓練や、シャンプー・毛刈りなど、みんなで毎日「ちえこ」号と向き合い、調教や手入れを重ね本番に向けて準備していきました。

会場入りしたのちも、落ち着いてリラックスしていた「ちえこ」号と大石氏。「第2区」の審査時点でも堂々たる落ち着き・振る舞いを見せてくれました。結果は、前には進めず入賞とはなりませんでした。県代表として出品し、出品審査会場に行った者しか得られない貴重な経験を得ることが出来ました。



審査会場



牛舎に戻り迎えてくれた仲間たち

### ◆今後の取り組み

次回第13回大会は、令和9年に北海道で開催予定です。今後も繁殖雌牛牛群の改良のベースとなる、“キレイでキラリと光る”後継牛の創出・育成に努め、日頃の管理の一環として調教等の技術を仲間たちで競い合い、牛との良い関係を築いていきます。目標は、「1歩前へ！さらに前へ！」



# No. 6 大豆圃場のアサガオ類が激減

地域振興課 水田農業係

## ◆取り組みの概要

大刀洗町の農事組合法人で大豆圃場のアサガオ類に対して除草剤の体系処理をしました。前年まではアサガオ類が多発して収穫するか否かを迷うほどであったため、ラクサー乳剤(以下ラク)、パワーガイザー液剤(以下パリ)、アタックショット乳剤(以下ア)を体系処理しました。試験区②と参考区ではほぼ満足できる程度に抑制しており、法人役員もその効果を実感しました。パワーガイザーを省略した試験区①では効果が不十分でした。



現地調査する法人役員

### 試験区の農薬の構成

試験区①	ラク+無+ア
参考区	ラク+パリ+無
試験区②	ラク+パリ+ア



除草剤の体系別のアサガオの㎡当り種子量  
左:試験区① 中:参考区 右:試験区②

## ◆今後の取り組み

大豆圃場に除草剤を体系処理することが定着していないため、実施法人との意見交換を踏まえて今回の結果をアサガオ類発生地に波及させ、大豆収量の安定および向上を目指します。

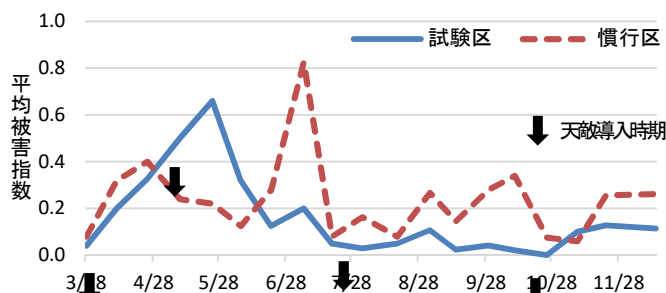
# No. 7 天敵によるバラのハダニ類防除技術の導入

野菜花き課 花き係

## ◆取り組みの概要

バラの生産現場では、ハダニ類の薬剤感受性低下による農薬散布労力の増加と品質・収量の低下が問題となっています。そこで、ハダニ類の天敵となる『チリカブリダニ』および『ミヤコカブリダニ』（以下、「天敵」）の天敵製剤を利用し、被害軽減効果と省力化の実証を行いました。

ハダニ類による被害状況は、天敵導入後これまでの栽培方法に比べ低く推移しました。実証を行った生産者は、天敵利用の効果を実感し、導入面積を拡大させました。



ハダニ類による被害状況の比較



ハダニ類の発生調査

## ◆今後の取り組み

引き続き調査を行い、生産者の所得向上のため地域への技術普及を図ります。

### 3 参考資料

#### (1) 受賞実績

令和4年4月から令和5年3月までの期間で表彰を受けた代表的な組織・個人

**表彰名：令和4年度福岡県麦作共励会 集団の部 優秀賞（県知事賞）**  
**受賞者：農事組合法人 やまかわ太郎（久留米市）**

令和4年度福岡県麦作共励会 集団の部において、農事組合法人やまかわ太郎が優秀賞（県知事賞）を受賞しました。

当法人の需要に応じた高収量・高品質な麦づくりの取り組みや、効率的な営農を実践するための土地利用調整の体制づくりが評価されました。



表彰式

**表彰名：福岡県農林水産まつり農林水産賞（名誉賞：農産部門）**  
**受賞者：石井 好人（うきは市）**

石井氏は、水稻の作業受託や期間借地を通じて地域農業をけん引する農業生産法人（株）みずほファームを経営されています。

JA全農ふくれん麦部会長として、麦の安定生産、品質向上に尽力するほか、近隣の就農希望者や農大生を研修生として受け入れるなど、県の農業振興にも大きく貢献されたこと等が評価され受賞となりました。



左から石井好人氏、服部知事、高木うきは市長

**表彰名：令和4年度全国優良経営体表彰 農林水産大臣賞  
（生産技術革新部門）  
受賞者：永田 弘（久留米市）**

永田氏は県内3カ所の牧場で乳用牛約250頭を飼養しており、それぞれの牧場で自動搾乳、分娩、哺育の業務分担を行い、効率的な経営を実現されています。

平成30年に3Dカメラを搭載した搾乳ロボット、換気効率に優れた「次世代閉鎖型牛舎」及び個体の乳量や活動量を一元的に管理するシステムを導入した農場を建設し、最先端の技術を活用した新しい酪農の実現に取り組まれてきました。

これらの取組みの結果、飼養管理や搾乳に要する労働時間を大幅に削減するとともに、牛の暑熱ストレス軽減によって、夏場の乳量・乳質の維持や疾病の低減を実現されました。

このことや、3人の子供夫婦が就農し、協力して牧場を運営している点などが高く評価され、受賞に繋がりました。



**次世代閉鎖型牛舎：壁一面に設置した換気扇で強力に換気**



**3Dカメラ搭載の搾乳ロボット**



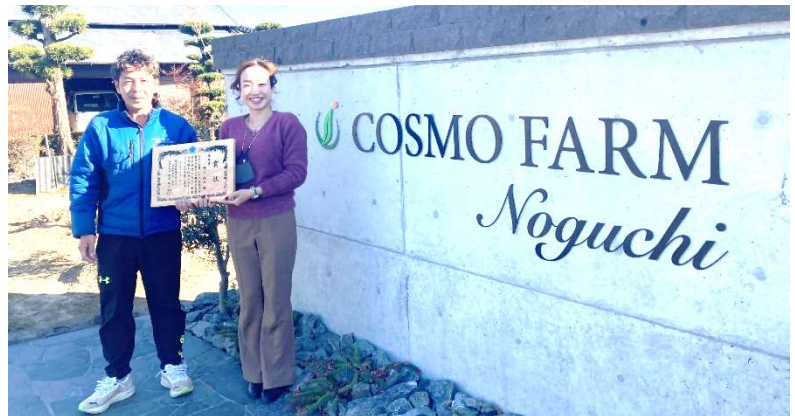
**服部知事に受賞報告を行った永田氏（前列左から2人目）と家族ら**



**表彰名：福岡県農林水産まつり農林水産賞（優秀賞：園芸部門）**  
**受賞者：野口政之（久留米市）**

野口氏は草花生産法人（株）コスモファーム野口の代表取締役として草花の生産販売を行うとともに、花、苗木農家や新規就農者とのパートナーシップによる生産販売システムを構築しました。パートナー農家に対して、技術指導、農機具の貸出等とあわせて、商品の買取を実施しています。

このシステムにより取引数量を確保し、販売力を強化するとともに、パートナー農家の生産コストの抑制や収入安定が図られることから、新規就農者の育成および定着に貢献したことが評価され受賞となりました。



賞区分	受賞者	表彰事業名	市町
第64回日本ばら切花品評会	松浦 哲郎	農林水産大臣賞	うきは市
令和4年度福岡県花き品評会「産物の部、バラ」	梶原 道博	農林水産大臣賞	久留米市
令和4年度福岡県果樹苗木品評会「柑橘1年生」	古賀 繁喜・絵里奈	農林水産大臣賞	久留米市
令和4年度福岡県花き品評会「産物の部、シクラメン」	杉 幸洋	農産局長賞	うきは市
令和4年度福岡県花き品評会「産物の部、シマニア」	行徳 寛昭	福岡県知事賞	久留米市
令和4年度福岡県花き品評会「技術・ほ場の部、トルコギキョウ」	今村 聡	福岡県知事賞	大刀洗町
令和4年度福岡県花き品評会「産物の部、バラ」	稲富 康一	福岡県知事賞	うきは市
令和4年度福岡県茶園共進会「幼木部門」	堀江 正晃	福岡県知事賞	うきは市

## (2) 令和4年の気象

### ●気象概況

令和4年の管内の気象は、年平均気温は17.5℃（平年16.8℃）、年間降水量は1,618mm（平年1,938mm）、日照時間は2,117時間（平年1,964時間）。

気温は、2月下旬に低く推移したものの、3月中旬、7月上旬、11月中～下旬が高く推移したため、全体としては高い傾向でした。

降水量は、7月18～19日に総雨量192.5mm大雨があったものの、5～6月が少なく推移したため、年間では少なくなりました。（データ：アメダス(久留米)）

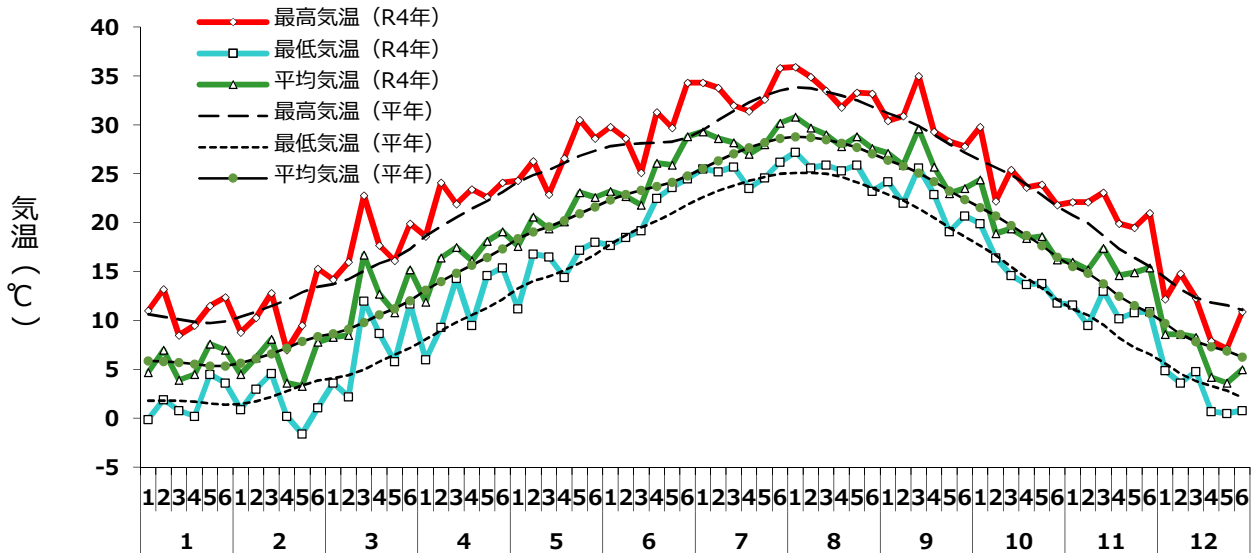


図1 気温の推移

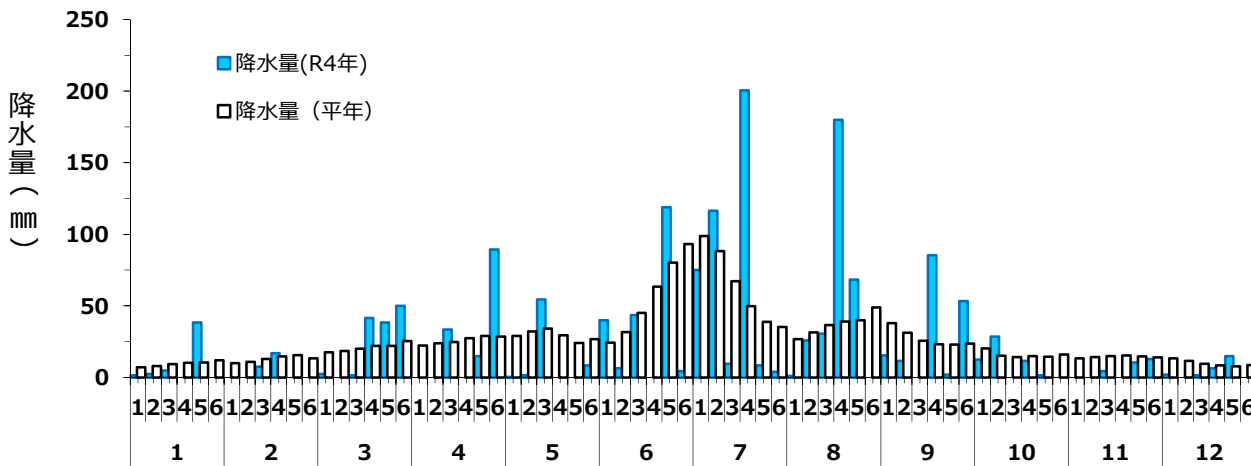


図2 降水量の推移

### ●令和4年度自然災害に関する普及指導センターの対応

災害発生前後に関係機関を通じて技術対策資料を配布

4月25日 大雨に対する農作物等への技術対策

7月 1日 台風4号接近に伴う農作物等の技術対策

7月19日 7月18～19日の大雨後おける農作物等に対する技術対策

9月 2日 台風11号接近に伴う農作物等の技術対策

9月16日 台風14号接近に伴う農作物等の技術対策

12月23日 農作物等の寒害及び雪害の被害防止に向けた技術対策

1月20日 農作物等の寒害及び雪害の被害防止に向けた技術対策

### (3) 主な展示ほ概要

対象作物	課題名	市町	結果の概要
水稻	被覆崩壊性の高い被覆肥料「Jコート」を用いた水稻の安定栽培技術確立	小郡市	環境負荷低減を図る緩効性肥料として、被覆崩壊性の高い「Jコート」の現地適応性を検討した。Jコート区は慣行区と比較して穂数が少なく収量が低下した。Jコート被覆肥料は慣行の肥料と比較して初期の肥効が早い分、7月下旬以降の窒素溶出量が少ないことが示唆された。
大豆	部分浅耕一工程播種技術の導入による大豆の安定栽培技術の確立	久留米市 (安武) (城島) (田主丸) うきは市	大豆播種に係る部分浅耕一工程播種の現地普及を目的に管内4か所で展示ほを設置した。調査の結果、3か所では慣行の二工程播種と比較して、大粒比率や百粒重が高い傾向で、収量は10～20%程度高かった。部分浅耕一工程播種は、未耕起部分があることで土壌の過乾燥を防ぐ特徴があり、粒肥大および収量向上に繋がった。
リーフレタス	露地栽培のリーフレタスにおける堆肥入り肥料の適合性検討	久留米市	露地栽培の基肥として、発酵鶏ふん堆肥を85%、緩効性ハイパーCDU中期を配合した緩効性肥料入り肥料と慣行のレタス専用肥料を比較した。その結果、11月11日収穫の品種「ノーチップ」では同程度の収量となった。土壌塩基濃度は、定植時に同程度であったが、定植17日後、収穫時には試験肥料が低くなった。
キュウリ	促成キュウリ栽培における追肥作業省力化を目的とした基肥一発施肥の検証	久留米市	促成栽培の基肥として、肥効の長さの違う4種類の緩効性肥料をブレンドした基肥一発肥料を施用することで、追肥作業の省力化が図れるかを検証した。初期生育は慣行栽培の方が良かったが、肥料の溶出は安定しているようであり、2月末現在までは追肥をせず同等の生育が認められた。
カーネーション	EOD-heating（日没後昇温管理）によるカーネーションの収量増加	久留米市 (田主丸) うきは市	管内のカーネーション栽培は、11月～5月出荷作型であり、冬季の加温温度が彩花本数や品質に影響する。EOD-heatingの実施により収量が増加した。
バラ	バラの収量増加・品質向上に向けた環境測定技術の活用	うきは市	8～9月の夜間管理温度を17～21℃で管理すると20～23℃管理と比較して、出荷時期に山谷がある品種では、9月中下旬出荷本数が増加する傾向がみられた。
ナシ	県育成品種「玉水（ぎよくすい）」における花の違いによる果実品質への影響	うきは市	ナシの主要品種において、子花は奇形果や低糖度になり易いため、春季に除去することが多いが、「玉水」は子花由来の果実でも果形が乱れることがなく、果実径と果実重が慣行栽培を上回った。また、糖度やヨード反応もやや向上していることから、子花結実による熟期促進の可能性が示唆された。

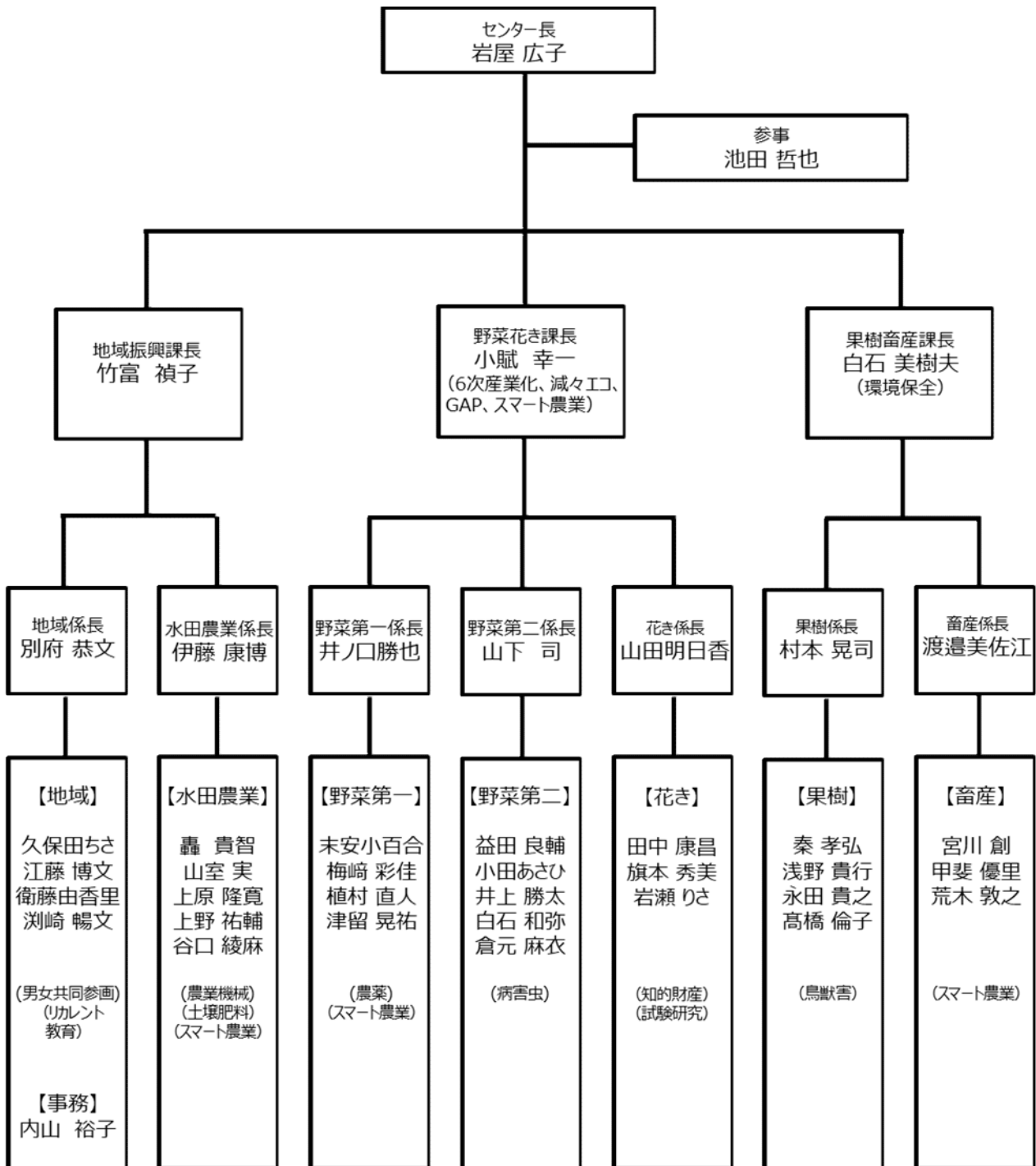


## (4) 普及指導センター活動情報一覧

普及指導センターがホームページなどで広く提供した資料です。

No.	タイトル	担当係	発行日
1	カキの高収量を目指して！	果樹係	5月9日
2	大豆栽培講習会を実施	水田農業係	5月24日
3	露地ナスの現地検討会を実施	野菜第二係	5月25日
4	全共出品候補牛の巡回調査会を開催	畜産係	6月7日
5	地元小学生がブドウづくりを体験！	果樹係	6月23日
6	「あまおう」栽培技術の早期習得を目指して	野菜第二係	7月4日
7	花の産地振興に向けて三地区で協力	花き係	8月1日
8	農業に関する基礎知識を習得	地域係	8月3日
9	新規就農者セミナー葉物コースを開催	地域係	8月26日
10	ぶどう・なし部会品評会が開催されました！	果樹係	9月5日
11	新規就農者の基礎力向上を目指して	野菜第一係	9月6日
12	女性農業者の更なる活躍に向けて	地域係	9月28日
13	ハトムギの現地検討会を開催	水田農業係	10月5日
14	イチゴ新規栽培者学習会 第4講を開催	野菜第二係	10月14日
15	農福連携の取組み拡大に向けて	地域係	10月31日
16	新規就農担当者会議を開催	地域係	10月31日
17	産地の花で「いい夫婦の日」をPR	花き係	11月18日
18	花き若手生産者が労務管理について学ぶ	花き係	11月22日
19	新規就農セミナー(葉物コース)第3回を開催	野菜第一係	12月5日
20	自ら考え行動する農家を目指して	水田農業係	12月9日
21	花あふれるプロジェクトin久留米	花き係	12月15日
22	夏季品目等説明会	野菜第一係	12月18日
23	ハウレンソウの省力作業体系の推進	野菜第一係	1月24日
24	法人、集落営農が久々の集合研修	水田農業係	2月2日
25	花あふれるプロジェクト in 久留米！第二弾	花き係	2月7日

## (5) 普及指導センターの活動体制

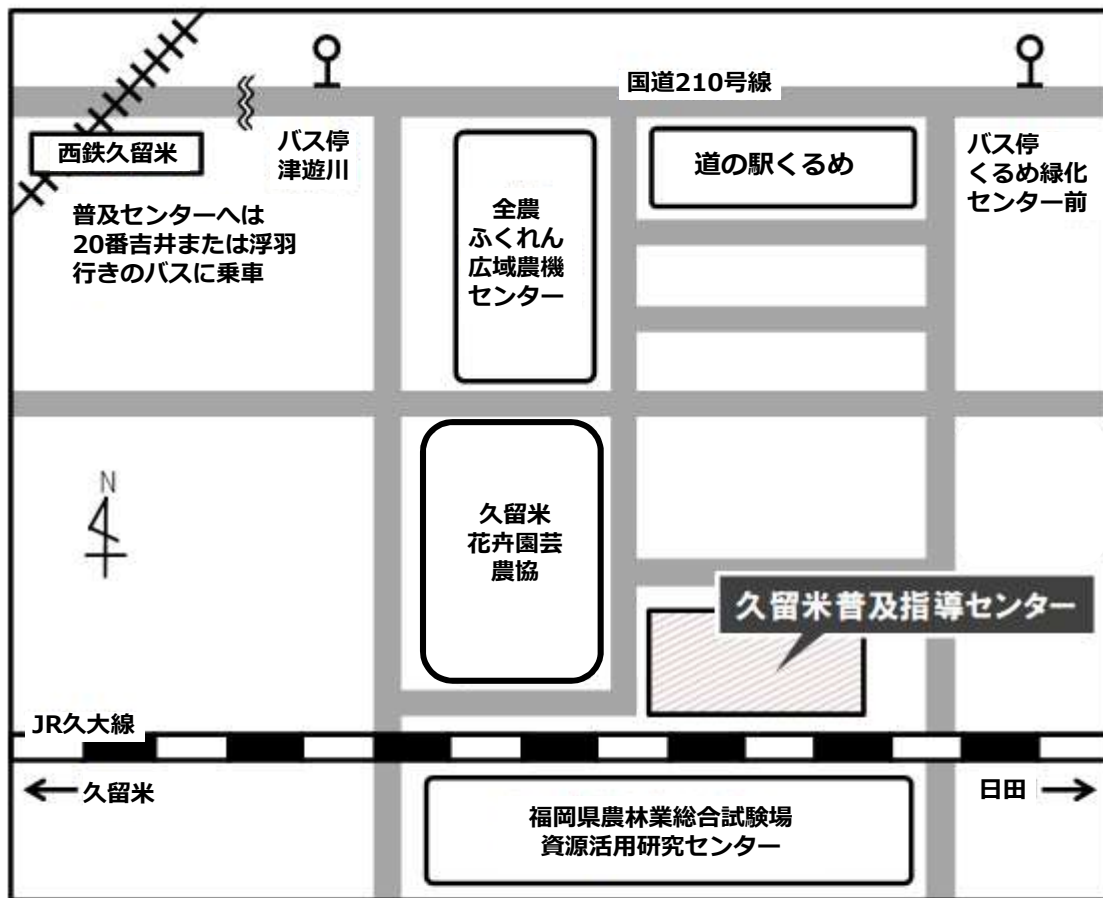








## ● アクセス



交通 西鉄バス 津遊川下車、徒歩10分  
久留米ICから車で15分

所在地 久留米市山本町豊田 1506-19

電話 0942-47-5101

FAX 0942-47-5105

E-mail [kurume-dlc@pref.fukuoka.lg.jp](mailto:kurume-dlc@pref.fukuoka.lg.jp)

HP <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4705101/>

福岡県行政資料	
分類番号 PA	所属コード 4703224
登録年度 04	登録番号 0001